

向日葵

第90号

〒473-0906

愛知県立豊田高等特別支援学校

豊田市竹町栄 21-1

TEL (0565) 54-0011



「当たり前」のために

わたしたちができること

教頭 畑中 文彦

本校では、「当たり前前」のことが当たり前前にできるようにと日々、生徒たちに話をしていきます。ここでいう当たり前とは、社会人として生活をしていく上での当たり前前です。具体的には、休まず登校する、挨拶をしっかりとする、自分の役割を果たすなどです。学校で学び、社会に巣立っていく生徒たちに身に付けてほしいこととして大切にしている目標の一つです。

文化祭の準備をしているときの出来事です。文化祭で使う道具の色塗りをしているとき、床に新聞などを引かないまま塗っていたので、教師が「床に絵の具が着かないように新聞とか敷いたら」と声をかけました。生徒たちは「これは水性なので拭けば大丈夫です」と答え、そのまま色塗りを続けました。

うに注意しなければなりません。私たちは物事を「できる」「できない」で評価してしまうことがあります。職員間で生徒の話をしてるときも、「○○はできる」「△△ができない」ということがあります。また、生徒たちからも「□□ができなかったの、次はできるように頑張りたい」といった反省を聞くことがあります。でも、これらは結果に対する評価です。「なぜできなかったのか」「どうしたらできるようになるのか」といった過程(プロセス)の評価になっていません。学校教育では、このプロセスに対する評価をしっかりとしていくことが大切です。

「できないこと」には必ず理由があります。その多くは、「やったことがないから」だったり、「力がまだ育っていないから」だったりします。「やったことがない」ことが「できない」のは当然で、「できるようになる」には「できるまで続ける」ことが大切です。そのためには生徒一人一人の努力はもちろん、成長を願い、励ます周囲の人たちの支えが必要です。それが「当たり前前」のことが身に付いていく過程となります。学校と家庭がそれぞれの役割を果たし、生徒の成長を支えていきましょう。

「私の趣味」

二年担任 川島 靖男

さびしい話からで申し訳ありません。私は三年前に弟を亡くしました。弟は四十六歳で急死でした。その時のショックは大きく、自分の体の一部を失ったような感覚でした。弟は独り身で母親と同居していたので私以上に母親のショックは大きかったと思います。私たちは二人兄弟でわりと仲もよかったです。今でも弟が心理テストで「おまえの本質は寄生虫だ。」と言ってきたのを思い出します。(その時は無性に腹が立ちました、よく考えると自分でも当たっていると思います)その後、実家のかたづけをしました。弟の部屋はホームシアターのようにでしたが、スクリーンは動かさず、プロジェクトターも電源が入りませんでした。母と相談し、できる修理をして、部屋を直しました。弟は家でDVD(借りるだけでなく買っていました)を見るのが好きだったので、修理から戻ってきたプロジェクトターを天井からつり下げ、スクリーンも壁際に掛けて電動で降りてくるように設置しました。機材は弟が買いそろえたものばかりなので、マニアの人から見れば古くて物足りないでしょうが、部屋にあったアニメや映画を見た時には感動しました。机の前の壁に弟の似顔絵をかけました。土曜日の部活が終わったあと、実家に行き母の様子を見て、時間があれば映画を見ます。弟は喜んでいてと思います。弟は喜んでいて「兄に寄生された」と言っているでしょう。

体育祭

十月一日

前日の夜から降り続く雨に、誰もが「延期」という文字を頭に浮かべたと思います。そんな中、体育祭をやるんだという皆の強い気持ち、早朝からの運動場の復帰や準備の努力に応えるかのように天候も持ちこたえ、無事体育祭を決行することができました。お足元の悪い中、多くのご来賓、保護者の皆様方の温かいご声援をいただき、各団の士気もより一層高まった中での開会式となりました。

一年生の学年種目、「ビッグウェーブ」では、勝敗を左右するくじで決められたコースを、全力で駆け抜けました。二年生の「豊田高等団体競技『棒取り』」では、最高得点のゴールデンバーをはじめ、より多くの棒の獲得を目指して力強く引き合いました。三年生の「絶対、決める！得点争奪戦」では、三年生ならではのスピード、チームワークで、相手の陣地から、得点の違うアイテムを奪い合い、高得点を目指しました。



各団、優勝を目指して全力で取り組む生徒たちの生き生きとした表情が印象的な体育祭となりました。悪天候の中ではありませんでしたが、多くの方々のご協力とご声援、ありがとうございました。

(総務部)



体育祭の思い出 一年 松下 竣有

十月一日、高校で初めての体育祭がありました。練習中は、厳しいこともたくさんありましたが、頑張って練習に取り組みました。体育祭の当日、僕は入場行進がうまくできるか心配で、とても緊張しました。しかし、始まってしまおうと緊張がほぐれ、堂々と行進することができました。応援では、何度も先輩たちと練習したおかげで、精一杯大きな声を出して、応援できました。練習からみんなと協力できたからこそだと思えます。総合優勝はできませんでしたが、応援優勝することができて、本当に嬉しかったです。

文化祭の思い出

三年 入田 勇斗

今回の文化祭が学生としての最後の文化祭でした。最初は、自分の演じている父親役に自信がもてず、早口になったり、役になりきることができなかったりしていました。どうしたら、どのようなアクションをしたら父親らしくなるのかを考えて練習をするうちに、イメージをもつことができました。練習を繰り返すうちに、少しずつ役になりきれるようになって、自信がもてるようになりました。本番では、舞台が成功して達成感が生まれました。はじめのうちは無理だと決めつけてしまっていました。今では、その役をやれてよかったと思っています。

最後の文化祭が最高のものになってよかったです。

文化祭

十一月十九日

悪天候の中ではありましたが、音楽部の華やかな演奏で幕を開け、今年の文化祭のテーマ、「夢をのせて 羽ばたけ！ 感動の瞬間を」のもと、各学年の舞台、企画発表が行われました。一年生の舞台発表では、現実世界にゲームが入り込み、失敗を糧にレベルアップしていく物語を力強く表現しました。二年生は、学校を舞台とした等身大の青春ストーリーを劇とダンスで表現しました。三年生は、未来の自分たちの姿を演じ、自分たちを支えてくれたいろいろな人への素直な気持ちを群読で届けました。

企画発表では、魚釣りやお化け屋敷、ボーリングや記録測定など趣向を凝らしたゲームで盛り上がり、体育館でのダンス発表では、多くのお客さんから温かい歓声をいただきました。

どの学年の舞台、企画も生徒たちの創意と工夫あふれるものとなりました。

(総務部)



地域交流(芋掘り)

三年 橋口 璃芹

十月二十一日に竜神こども園の五歳の子どもたちと一緒に芋掘りをしました。私は、男の子と一緒にやりました。その男の子が、「ここに芋があるよ。」と教えてくれました。私は、「上手に掘れるかなあ。」と返事をしました。一緒に協力をして、今年は大きな芋をたくさんとることができました。

芋がたくさんとれて、子どもたちの喜ぶ顔を見ていたら、私もとても嬉しくなりました。芋掘りができて、よかったなあと思いました。



美化活動



二年 大山 拓巳

僕は、ボランティアや地域交流の場となっている公益財団法人「あすて」で、クラスのみんなと協力して清掃をしました。台車を使って木を運ぶお手伝いをしました。木をのせた台車を引きながら坂を上るのが、とても大変でした。

清掃後は、竹を加工して物を作っている輝夜姫(かぐやひめ)の方々に教えていただきながら、風車を作りました。いろいろな色と柄がついた紙を貼ったので、回った時がともきれいでした。地域の方との交流もできて、とてもいい思い出になりました。

竜神ふれあい祭

三年 倉島 しずか

十一月六日に行われた、竜神ふれあい祭では、学校で作った製品を販売しました。私は、お客様に製品の紹介をしました。しっかりとアピールすることができました。休憩時間は、製品を買ったり、模擬店のうどん、五平餅、エクレー、わたあめを食べたりしました。

美化活動では、お客様が使っている机を拭いたり、ゴミ拾いや分別を行いました。

私は、この竜神ふれあい祭に参加して、地域の人と交流を深めることができました。とても楽しく、やりがいを感じました。



魅力発見フェスタ



十月十六日、豊田市の公立高等学校、特別支援学校が各校の特色や魅力を、中学生や保護者、地域の方々に発信する場として「魅力発見フェスタ二〇一六」が、豊田市スカイホールで行われました。

本校は、学校紹介や製品頒布を通して、本校の魅力を発信し、多くの方から製品へのお褒めの言葉をいただきました。また、体験コーナーを設け、本校の紙器加工班によるオリジナル封筒作りを体験していただきました。

(総務部)



学校評価

本年度の学校の重点目標は、生徒自身が自己認識を深め、社会に出て豊かに生きていく力を身に付けることを目指し、授業における指導方法の工夫と改善、生徒の主體的な活動の促進、教職員の研修の充実、社会的規範意識、安全意識の向上、共同学習等における体験学習の充実を柱としています。

第一回の学校評議員会・学校関係者評価委員会では、各校務分掌から本年度の取組の具体策を提示しました。

学校評議員の方々からは、「自己認識を深めることは大事なことである。自分のことを周りに説明できるようにしたい。」「生徒に考える力をもたせていくと伸びると思われる。」「ヒヤリハットの取組など、意見を吸い上げていくことが大切である。」等の御教示をいただきました。

前期が終わり、半年間の取組の実践と成果、後期に向けての改善策を学校評議員の方に報告しました。今後、生徒一人一人を尊重し、社会自立、職業自立を目指す教育を推し進めて、生徒が生き生きと活動し高め合える学校を目指していきます。

(総務部)

寄宿舎

寄宿舎指導員 高橋 聖宗

本年度は、男子九名女子二名の計十一名の新入舎生を迎えてスタートを切りました。入舎当初の一年生は、毎日の日課を覚え、新しい環境での生活に慣れることに必死でしたが、優しい先輩舎生たちに支えられ、今では周りの舎生たちと楽しく生活できるようになってきました。

寄宿舎の行事は、寄宿舎役員を中心とした舎生会で、舎生自らが考えて行っています。最近では、ピザパーティーや大部屋を使ってみんなで寝るなど、みんなが楽しめる行事を行いました。

中でも、七月十二日に行われた寄宿舎の夏の大イベント「納涼会」では、多くの地域の方々にも参加していただき、盆踊りや出し物等で交流を深める事ができました。当日までの準備や練習への取組みは、一人一人が自分の役割に責任をもち、積極的に取り組むことができました。自分たちでアイデアを出し、行事を作り上げる達成感と充実感を感じる事ができるイベントとなりました。

今後も、舎生の自立を支援し、寄宿舎が楽しいと思えるような環境作りを目指し、舎生たちと話し合いながら、よりよい寄宿舎を築いていきたいと思えます。

今後の予定

- 12月 6日(火) 持久走大会
- 12月24日(土)～1月6日(金) 冬季休業日
- 12月27日(火) 愛びっくバスケットボール大会
- 1月10日(火) 授業開始
- 1月14日(土) 卒業生の体験談を聞く会
進路相談(2年)
寄宿舎懇談会(1年)
- 1月16日(月) 振替休業日
- 1月25日(水) 会社見学(1年)
- 1月26日(木) 学校保健集会、学校保健委員会
- 1月31日(火) 家庭学習日(午後)
- 2月 1日(水) 入学者選考(家庭学習)
- 2月14日(火) 授業参観日、3年全体会
1、2年進路説明会
PTA 研修会
寄宿舎懇談会(2年)
- 2月27日(月) 卒業生を送る会
- 3月 1日(水) 卒業証書授与式

平成二十八年

後期生徒会役員

- 会長 二年 平生 楓
- 副会長 二年 森田 英士
- 書記 二年 加藤 弘信
- 書記 二年 橋本 恋
- 会計 一年 上山 雄大

●愛びっく陸上競技大会

(三位以内)

- 「ソフトボール投げ男子」
第二位 上浦 友輔
- 第三位 平生 楓

●全国障害者スポーツ大会

「卓球(一般 ブロック戦)」

- 第一位 中山 雄貴
 - 第二位 武藤 拓実
 - 第三位 尾崎 亜梨沙
- 「男子バスケットボール」
第二位 井上 拓海 (県選抜)

「ソフトボール投げ女子」
第三位 長友 茉泉

- 「1000m女子」
第一位 山下 明日香
 - 第三位 加藤 桃子
- 三分二秒六四
三分四秒七六